

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2019年4月15日

事業ID:2017458522

事業名:兵庫県尼崎市における第三の居場所(C)
の運営(兵庫県尼崎市・1年目)

団体名:特定非営利活動法人あつとすくーる

代表者名:理事長 矢野 剛 印

TEL:072-702-0020

事業完了日:2019年3月31日

事業費総額	35,360,000円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	0円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	35,360,000円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	0円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容(実績。700文字以内):

兵庫県尼崎市における第三の居場所(C)の運営

(1)日時 2018年3月1日~2019年3月31日

(2)場所 兵庫県尼崎市

(3)参加者 小学校低学年 20名

(4)内容 「家でも学校でもない第三の居場所」をつくり、そこで社会的相続を補完する。拠点には専門スキルを備えたスタッフを配置し、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援する。

兵庫県尼崎市における第三の居場所(C)の運営

(1)日時 2018年3月1日~2019年3月31日

(2)場所 兵庫県尼崎市

(3)参加者 小学校低学年 6名

(4)内容 「家でも学校でもない第三の居場所」をつくり、そこで社会的相続を補完する。拠点には専門スキルを備えたスタッフを配置し、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援する。

2.事業内容詳細:

(1)日常支援

放課後、子どもたちを迎えに行き拠点に連れてくるところから始まり、そこから学校の宿題に取り組み、施設内もしくは近所の公園で遊び、夕食(希望者のみ)を食べ、保護者の方がお迎えに来た子どもから帰っていきます。学習面では、学校の宿題以外にも本人のレベルに合わせた内容の学習を行い、学力の遅れを補うようにしています。

(2)各種イベント

・キャンプ

尼崎市内の他の2拠点と合同で、夏休みにキャンプを行いました。兵庫県にあるキャンプ場に行き、川

遊びや花火をし、普段できない経験を子どもたちにしてもらうことができました。普段の拠点とは違う子どもたちの一面が見れたこともあり、有意義な機会となりました。

・クリスマスパーティー

寄贈いただいたクリスマスプレゼントで子どもたちと一緒に遊んだり、部屋をクリスマス仕様に飾り付けをしたり、ケーキを食べてみんなで楽しみました。

・世界遺産姫路城見学

3月に世界遺産である姫路城に子どもたちを連れて行きました。

3.契約時事業目標の達成状況:

【助成契約書記載の目標】

- 1.拠点利用児童の募集
- 2.児童への居場所・読み聞かせ、学習支援・食事の提供
- 3.保護者・地域・行政との関係構築
- 4.全国展開に耐える事業モデルの構築

【目標の達成状況】

1の達成状況:目標20名のところ、6名でした。

2の達成状況:1年間を通して提供することができました。

3の達成状況:行政とは毎月1回会議を行い、関係構築を図りました。また、尼崎市内の職員研修にて拠点の周知を行いました。保護者については、保護者自身の状態が厳しいこともあり、関係構築の難しさを感じています。その中で、お迎えにこられた際のコミュニケーションを大事にすることで利用開始時に比べて保護者の方との関係は深まってきています。

4の達成状況:子どもの数も少なかったため、全国展開に耐えるモデルとなりうるかどうかは2年目以降児童を増やしていくことで模索して行きます。

4.事業実施によって得られた成果:

2021年3月末時点で、本事業を利用している児童が以下の状態になっていることを目指します。

- ・学習意欲が向上し、かつ、学習習慣が定着している(学校の宿題を遅れずに出すことができる)
- ・生活習慣が改善・安定している(遅刻欠席なく学校に登校できる、忘れ物がない)
- ・ロールモデルとなる大人を見つけている(将来の目標がある)

5.成功したこととその要因:

(1)拠点利用児童の募集

・年度後半に学校に訪問に行ったことをきっかけに、年度末には学校内で本事業に該当しそうな子どもを選定していただき、チラシの配布を行っていただけた。

(2)児童への居場所・読み聞かせ、学習支援・食事の提供

・児童のお迎えの事情に合わせて学習時間を柔軟に変更するなど、その日その日の子どもたちにとって最適な形を柔軟に設定できました。

(3) 保護者・地域・行政との関係構築

・毎月1回尼崎市を交えて定例会議を実施しました。拠点の運営において担当課の方が非常に理解を示してくださっていることが大きいです。

6. 失敗したこととその要因:

(1) 拠点利用児童の募集

年度後半まで、学校から子どもたちに本事業を紹介してもらうことができませんでした。年度後半に再度学校訪問を行い、再度本事業について説明を行ったところ、本事業に対する学校の先生の理解と、実態が少しずれていたことがわかりました。年度末には学校の先生からの紹介できてくれる児童も増え、来年度以降は改善できると見込んでいます。

(3) 保護者・地域・行政との関係構築

・地域との関係構築は今年度着手できませんでした。拠点付近の地域資源を把握できていなかったため、来年度は地域資源の把握を行い、関係構築に努めます。

7. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案:

(1) 拠点利用児童の募集

課題: 必要な層に情報を届けられていない

対応案: 学校の学童保育が満員で入れない子どもたちがおり、そこには本事業の利用対象となる層が一定含まれていると考えています。来年度以降は学校とのつながりを強化することと、小学校入学前の子どもたちにアプローチできる方法を検討し、そうした子どもたちに情報が届き、本事業の利用につながるようにしていきます。

(2) 児童への居場所・読み聞かせ、学習支援・食事の提供

課題: 大学生ボランティアの確保

対応案: 日々の運営において、大学生ボランティアが非常に重要な役割を果たしてくれています。ただ、現在は曜日によって入ってくれる学生の数も変動するため、子どもの人数に応じた必要な数の大学生を確保する必要があります。近隣の大学で本事業の紹介を獲得し、大学生を確保できるよう努めます。

事業成果物:

【成果物の名称】

2018年度実施報告 1部

【成果物がアップロードされているCANPANのURL】

<https://fields.canpan.info/report/detail/22470>